

研修名 保育内容研修14（乳児保育）

平成29年1月17日（火）10:00～12:30

講演・演習 「言葉の発達～自我・言葉・

コミュニケーションの発達と保育者の役割」

講師 大阪府立大学 里見 恵子 氏



1 講演要旨

1) 赤ちゃんの生得的能力

- ① ミラーニューロン：人の行為を模倣する神経細胞のこと
※これが全ての学習の基本となっている。
- ② プレジャーサイン：赤ちゃんが人の話しかけに対して反応して出す声
・音調の模倣⇒ことばの獲得
・声のやりとり⇒会話の力
- ③ 社会的参照：赤ちゃんは、今、自分がしようとする行動は「安全か」「危険か」を母親の態度から察しようとする。
・子どもたちは母親の情緒を手掛かりに行動するため、母親の情緒が安定していると子どもも安定しやすく、積極的な子どもに育ちやすい。

2) コミュニケーションとことばの発達

- ① ことばの前のことば 前言語発達
・前言語発達段階：ことばの出現の前の、ことばによらないコミュニケーションの段階のこと
※この時期に、言語とコミュニケーションの基礎的な発達がある。
- ② 乳児期のコミュニケーション
・人とのかかわりの楽しさ⇒楽しみの共有
・応じてもらう喜び⇒人への信頼感
・やりとりの中にある学び⇒快い記憶
- ③ 意図の伝達
・意図的伝達段階：生後10ヶ月～1歳頃
視線（誰に）＋発声（注意喚起）＋行為（意図）

3) ことばの発達

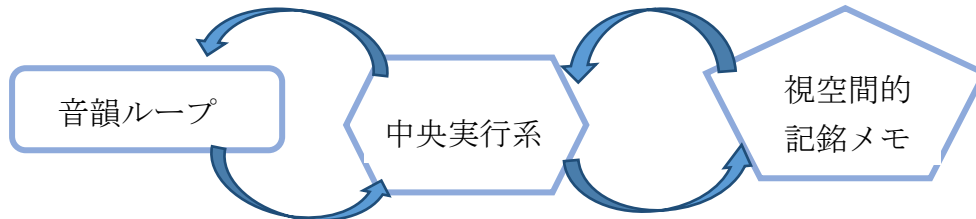
- ① 言語の機能
・伝達の機能：人に自分の意図を伝える
・命名の機能：いろいろな形や材質の物全て「コップ」と名付ける
・思考の機能：ことばによって、自分の考えをまとめる
※命名の機能と思考の機能は、言語で行う。

②語彙の増加

・ 1 歳頃 ⇒ 2 歳頃 ⇒ 3 歳頃 ⇒ 6 歳頃
初語 約 130 語 約 1000 語 約 3000～8000 語

※5000 語も差が出る可能性がある

③ワーキングメモリー



4) 乳児期の気づきは大事なサイン

①赤ちゃんの気質（ブラゼルトンの研究より）

- ・ おとなしい赤ちゃん：発達の遅れや障害が潜む
- ・ 気難しい赤ちゃん：自閉症、ADHDなどの障害が潜む

②気になる子とその対応

- ・ よく眠り大人しい子…目覚めた時に遊びを通して感覚刺激を入れる。
感覚運動系の関わりでしっかり覚醒させる。
- ・ 多動な子ども…子どもを壁に向かわせ、視覚的刺激を少なくする。
目に入るものを減らして遊ぶ。
短い時間でも、繰り返して遊ぶ。
絵本は、ストーリーのない絵本から始め、擬態語の多い絵本に移行していくと良い。
- ・ 自閉的な子ども…パニックになる原因を探り、できるだけ避ける。
特定の人との関係を作る。
ことばに指さしを添える。

2 感想

プレジャーサインや前言語発達段階のように、ことばになるまでも子どもたちが自分の思いを伝えようとする姿がたくさんあるということで、声やしぐさ等、様々な角度から子どもたちの思いを受け止めていくことで、安心して自分の思いを出せるような人間関係をさらに築いていけるよう努めていきたいと感じた。また、子どもたちが、やりたいことを安心して自発的に取り組めるよう、肯定的な声かけや表情、しぐさ等の関わりを意識する他、やりたいことを実現させてあげられるような環境づくりを見直していきたい。

（記録 舞鶴市立中保育所 岩崎綾美）